

新基地建設反対名護共同センターニュース

人類の財産・奇跡の海 大浦湾を守れ！ 沖縄県と日本自然保護協会共催でシンポジウム



声明を採択

**直ちに工事中止し、調査を行うこと
辺野古新基地建設計画を断念すること**

沖縄県は日本自然保護協会と共催で24日、浦添市内で「辺野古・大浦湾シンポジウム―沖縄の財産、世界の宝を未来に―」を開催。翁長雄志知事は「大浦湾は奇跡の海だ。基地建設で人類共通の財産が永遠に消失することに強い危機感がある」「(工事の)32工程のうち着工はまだ6か所で2度と後戻りできない状態ではない。工事中止を求める声が高まれば大浦湾は守れる」と挨拶。世界最大の自然保護団体・国際自然保護連合(IUCN)の専門家ら6氏が登壇し、辺野古・大浦湾の貴重な生態系を詳しく報告しました。参加した約250人は日米両政府に対し、①直ちに工事を中止し、大浦湾の生態系および影響を徹底調査し改めて評価すること、②辺野古新基地計画を断念すること、を求める声明を採択しました。

基調講演から

●フランソワ・シマルル IUCN
世界海洋極地プログラム副部長

辺野古・大浦湾での新基地建設工事は生態系に与える影響は計り知れない。自然環境は一度破壊されたら取り返しがつかなくなるから事前の環境影響評価(アセスメント)が非常に重要だ。政治的意図が絡まず世界基準の専門家が見極める必要がある。課題は持続可能な開発と自然保護のバランスをとることだ。昨日、初めて辺野古・大浦湾を視察したが健全なサンゴ礁に透明度の高い水質、豊かな生物多様性が確認できた。世界に誇るべき素晴らしい環境だ。

●吉田正人 筑波大学大学院教授

大浦湾は水深が深く、地形の複雑さが生物多様性を生み出している。大浦湾は天然記念物の指定、やんばる国立公園の拡張、世界自然遺産への拡張登録など価値を有する動植物の生息地として保全対象とすべき海域だ。

ゲート前集会や海上行動へ

●ゲート前第1土曜集中行動
4月7日(土)

午前8時～午後4時 ゲート前座り込み
正午から13時まではテント村で大集会

●海上座り込み行動
4月25日(水)

午前7時テント2集合、カヌーと抗議船で
13時～ 辺野古の浜で連帯集会



天皇訪沖期間搬入中止に

ゲート前では、天皇の訪沖期間の警備の関係から3月中旬から月末まで基本的に作業車による土砂の搬入が止まっています。しかし、20日(火)だけは工事車両310台が入り、住民たちが「違法工事やめろ」と抗議の声を上げました(写真)。

「安倍内閣は退陣せよ！」国会への抗議 日増しに拡大 森友公文書改ざんに国民の怒り沸騰！

新基地建設反対への連帯表明も相次ぐ

財務省の公文書改ざん事件に多くの国民の中に怒りが沸騰し、国会には連日多くの国民が抗議に押しかけています。19日には5000人が国会内外で「安倍内閣は退陣せよ！」と集会が行われ抗議の声を上げました。議員会館前の集会では、伊波洋一参院議員(沖縄の風)や一坪反戦地主が「公文書改ざん事件と違法な辺野古新基地建設強行問題の根は一つ、沖縄と連帯してたたかいを発展させよう」と訴えました(写真)。



挨拶する伊波洋一参院議員(19日)

